

はじめに

「体を動かしていないな」とは感じているけど、
なかなか始められない？
始めたとしても続けられるのか、
どうせ続かないなら始めてもしょうがない…。
そう考えているあなた、大丈夫です。

身体活動量をアップする方法について、一緒に考えましょう。



安静にしている状態より多くのエネルギーを消費する動作をまとめて「身体活動」といいます¹⁾。身体活動は、日常生活における労働や家事などの「生活活動」と、体力の維持・向上を目的として、計画的・意図的に実施される「運動」の2つに分けられます。

身体活動とは？

身体活動

生活活動

日常生活における労働、
家事などの活動

例：買い物・洗濯物を干す
などの家事、犬の散歩・子
どもと屋外で遊ぶなどの
生活上の活動、通勤・営業
の外回り・階段昇降・荷物
運搬・農作業・漁業活動な
どの仕事上の活動など



運動

体力の維持・向上を目的として、
計画的・意図的に実施される活動

例：ジムやフィットネス
クラブで行うトレーニ
ングやエアロビクスな
ど、テニス・サッカー・
バスケットボールなど
のスポーツなど



身体活動量アップで健康維持！
私のアクティブプラン

このパンフレットは、おなか周りや運動不足が気になる方に向けた健康的な体づくりのためのツールです。これからの健康のために早めに対策を知っておきたい方はぜひご活用ください。

1) 厚生労働省. 運動基準・運動指針の改定に関する検討会 報告書. <https://www.mhlw.go.jp/content/001194044.pdf>

ちょっとした身体活動にも意味があります

少しでも、まずは体を動かすことが大切です。身体活動量が多いほど、心筋梗塞や脳卒中など生活習慣病のリスクは低下します。また、肥満の予防・改善には身体活動量のアップが欠かせません。最初は少しずつゆくりと、身体活動の強度、時間を増やしていきましょう¹⁾。

「忙しくてあまり時間が取れない」
「体をたくさん動かすのは苦手」
そんな方もいるかもしれません。
でも、はじめは“ちょっと”でいいんです。一緒に、最初の
一歩を踏み出しましょう。

身体活動を取り入れる時の大切な考え方

“ちょっとでも”動く
少しの身体活動でも、何も
しないより意味があります。

“ちょっとずつ”動く
はじめは時間が
少なくてもいいんです。



身体活動量が多いほど、病気にかかる
リスクや死亡リスクが低い²⁾。

- 虚血性心疾患 (狭心症や心筋梗塞など)
- 高血圧
- 糖尿病
- 肥満
- 骨粗鬆症
- 結腸がん

その他、日常生活では
以下のような効果が期待できます。

- 労働生産性 (仕事の効率) の向上
- メンタルヘルスの向上
- 記憶力の向上

身体活動量が多い人と比較して、
身体活動量が不足している人では認知症や
アルツハイマー病のリスクが高まる。



まずは今より10分多く体を動かそう

年齢ごとの身体活動量の目安を参考に、連続ではなくてもよいので、身体活動量を
今より少しでも増やすことを目指しましょう。

身体活動量の目安¹⁾

● 18～64歳向け

普通に歩く時の強度以上の身体活動を1日に60分行うことを目指し、
運動も上手に取り入れましょう。

身体活動 = 生活活動 + 運動

① 強さは？

普通に歩く時の強度以上

② 時間は？

1日の合計が60分

運動

① 強さは？

息が弾み汗をかく程度

② 時間は？

1週間の合計が60分

● 65歳以上向け

身体活動を1日に40分行うことを目指し
ましょう。運動は、無理のない範囲で行い
ましょう。

身体活動 = 生活活動 + 運動

① 強さは？

無理のない強度

② 時間は？

1日の合計が40分

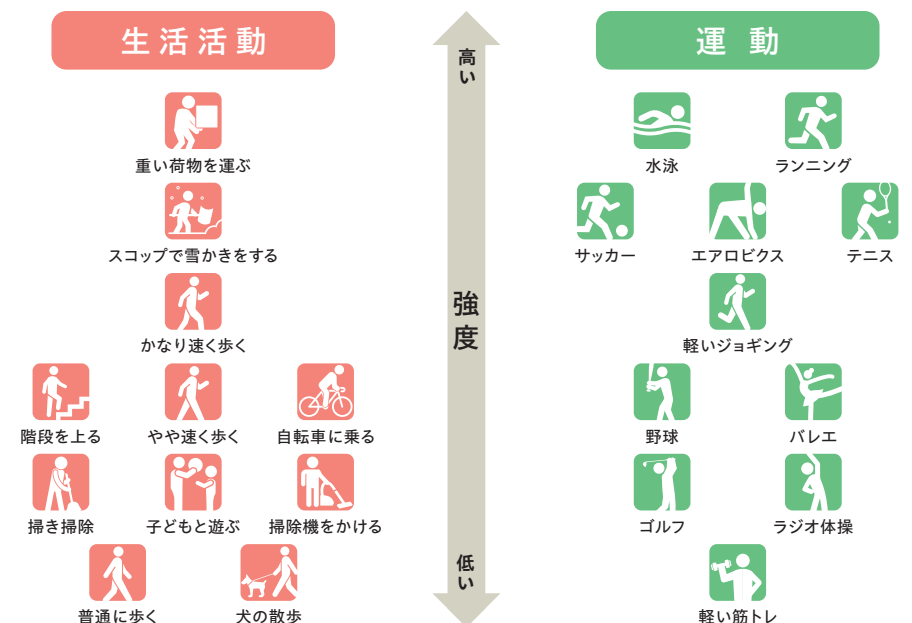
今より毎日10分多く歩くことで、死亡リ
スクや慢性疾患・がん・ロコモティブシン
ドローム※・認知症の発症リスクが減少
するといわれています。
体力の維持・向上のためには、1回あたり
30分以上の運動を週2日以上行うとい
いでしょう¹⁾。

※骨や関節の病気、筋力の低下、
バランス能力の低下によって
転倒・骨折しやすくなることで、
自立した生活ができなくなり、
介護が必要となる危険性が
高い状態



普通に歩く時の強度以上の身体活動とは？

「普通に歩く時の強度以上」の身体活動には、ランニングやテニスなどの激しい運動だけでなく、速く歩く、階段を上る、掃除機をかけるといった「ちょっとした生活活動」も含まれます¹⁾。



参考 身体活動で消費するエネルギー量 (kcal)

身体活動の強度が高い動作								
	普通歩行	速歩	水泳	自転車 (軽い負荷)	ゴルフ	軽い ジョギング	テニス (シングルス)	ランニング
活動時間	10分	10分	10分	20分	60分	30分	20分	15分
体重別エネルギー消費量 (単位:kcal)								
体重 50kg の場合	25	33	67	67	175	150	117	100
体重 60kg の場合	30	40	80	80	210	180	140	120
体重 70kg の場合	35	47	93	93	245	210	163	140
体重 80kg の場合	40	53	107	107	280	240	187	160

1回の身体活動で消費されるエネルギー量は、活動内容・活動時間・体重によって決まります。

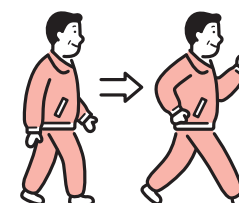
日常生活の中で身体活動量アップ

まずは日常生活の中で、今よりも少しでも身体活動量を増やしましょう。国が示す健康づくりのための身体活動指針であるアクティブガイドでは『+10 (プラス・テン): 今より10分多く体を動かそう』をメッセージとして日々の身体活動量アップを推奨しています¹⁾。普通歩行を+10分することで、60kgの方であれば、1年間で1.5kgの体重減少効果が期待できます。

外で



目的地の一つ前の駅で降りたり、いつもと違う道を使ったり、歩く時間を10分(約1,000歩)増やす。



歩幅を広くし、速く歩く。

仕事場で

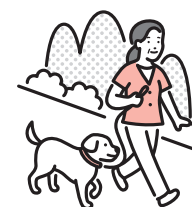


エレベーターではなく、階段を使う。



時々立ち上がって、体を動かす。

自宅で



散歩で歩く時間を10分(約1,000歩)増やす。



週に1回、草むしりやどこか1カ所の大掃除をする。

推奨されている身体活動量を歩行数に換算すると、1日あたり20～64歳で8,000歩、65歳以上で6,000歩相当となります²⁾。まずは、普段の生活の中でいつもより多く歩くことを意識するようにしてみましょう。



※上記内容は一例となります。病気やけがなどの影響で医師から運動などを制限されている場合には、その指示に従ってください。

1) 厚生労働省. 運動基準・運動指針の改定に関する検討会 報告書 (健康づくりのための身体活動基準2013). <https://www.mhlw.go.jp/content/001194044.pdf>

1) 厚生労働省. 健康づくりのための身体活動指針 (アクティブガイド). <https://www.mhlw.go.jp/content/001194045.pdf>
2) 厚生労働省. 健康日本21(第三次)推進のための説明資料(案). <https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/001060706.pdf>

取り入れやすい手軽な運動

体を動かすことは、ストレス解消にもつながります。運動にはたくさんのメリットがあるので日常的に意識してみましょう。

上体起こし



膝を曲げた状態から頭と肩を起こし、おなかをのぞくようにする。

大腿後面のストレッチ



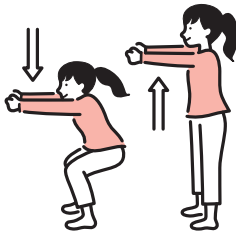
伸ばした足にタオルをかけ、両手で握り、上半身をゆっくり引き寄せる。

股関節のストレッチ



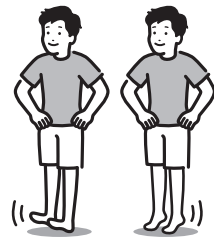
両足の裏を合わせて股を開き、両膝を軽く下へ押す。

スクワット



両足を肩幅よりやや広くして立つ。ゆっくりと膝を曲げ、伸ばす。膝の角度で負荷を調整する。

足関節の背屈と底屈運動



壁に向かって立ち、かかとを付けた状態で足裏全体を床から持ち上げる。元に戻した後、つま先を付けた状態でかかとを持ち上げる。

上半身の捻転運動



両足を肩幅に開き、両手を使って上半身をひねる。

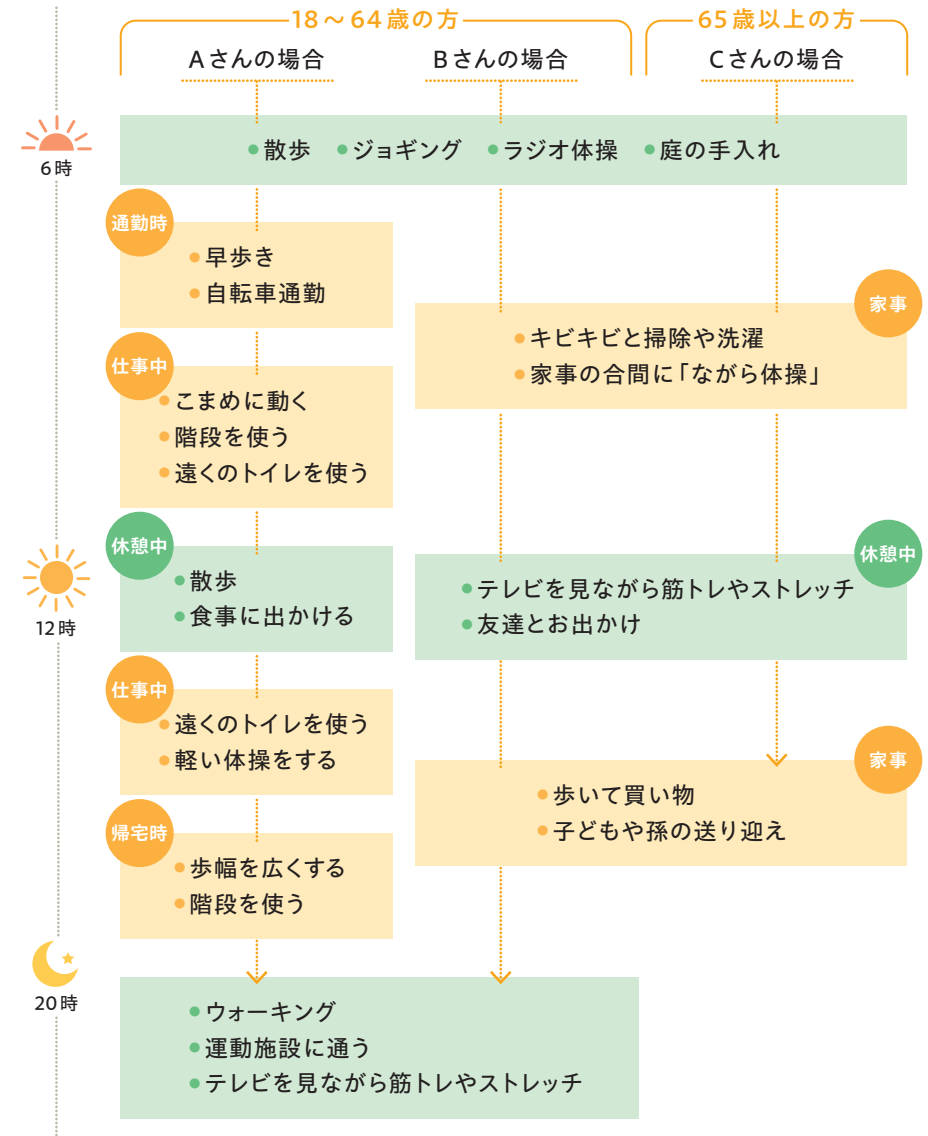
腰のストレッチ



上体をゆっくり前に倒す。両手を上げながら上体を後ろにそらす。

(例) 1日のタイムスケジュール

ライフスタイルに合わせて上手に身体活動を取り入れていきましょう。



現状を把握し、目標を決めましょう

① 現状把握

現在の生活習慣の状況は？

まずは現在の生活習慣の状況を把握しましょう。

該当する項目にチェックしてください^{1,2)}。

- ☐ 1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上実行していない
- ☐ 1日の歩行時間は1時間未満だ
- ☐ 同世代の同性の人と比べて歩く速度が遅いほうだ
- ☐ 積極的に体を動かすような工夫をしていない
- ☐ 階段はあまり使わない
- ☐ 家から一歩も外へ出ない日がある
- ☐ 歩いて5～10分のところでも歩かない

座っている時間が長いと死亡や心血管疾患のリスクが上昇することがわかっていますので¹⁾、座りっぱなしの時間がどのくらいあるかも確認してみましょう。



② 目標設定

身体活動を通じて実現したいことは？

どうなりたいか、何をしたいか、自由に書き出してみましょう。

身体活動における具体的な目標は？

生活活動と運動について、いつ、どんな活動を、どれくらいするか、期間に分けて具体的に書き出してみましょう。

※目標例

	短期目標(3ヵ月) ステージ1	中期目標(6ヵ月) ステージ2	長期目標(12ヵ月) ステージ3
生活活動	外出時、最寄り駅まで遠回りをして、いつもより10分多く歩く	外出時、目的地の1つ前の駅で降りて、いつもより30分多く歩く	外出時、目的地の3つ前の駅で降りて、1日90分歩く
運動	歯磨き中、スクワットを10回する	テレビを見ながら、スクワットを20～50回する	筋トレ15分、ジョギング15分(1日計30分)を週2日する



身体活動量のアップなどにより、エネルギー消費量がエネルギー摂取量を上回ると、体重などの指標に変化が現れます³⁾。体重・腹囲などがどのように変化するか一緒に確認していきましょう。

記録をつけましょう！

③ 計画

計画書の作成

記録シートに目標数値などを記入しましょう。



記録シートはこちらからダウンロードできます。

記入見本 記録シート 年 月

「身体活動量アップで健康維持！私のアクティブプラン」と併せてご活用ください。

身体活動量の目安
18～64 身体活動：普通によく歩く強度以上、1日の合計歩数 運動：息が弾み汗をかく程度、1週間の合計歩数 推奨されている身体活動量を歩行数に換算する²⁾

日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
計画(達成○、半分達成△、未達成×)	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生活活動	いつ 仕事 2/4は出張で取り組む時間がなかった。																		
運動	いつ 朝 スクワット 30回 2/3は寝坊したためできなかった。																		
歩数	歩数グラフ 1日の目標歩数 8,000																		
自己評価	仕事では階段を使ったり、家では歯磨きのついでにスクワットしたことで格段なく取り組めたことが達成につながった。来月は徒歩をいつもより15分以上、スクワット50回以上を目指す。																		

上段に計画の実行度合いを○△×で記入し、下段には週ごとに実行度合いについて自由に記入してみましょう。
※達成○、半分達成△、未達成×

歩数計(万歩計)などを利用して日々の歩数を記入しましょう。グラフ化することで変動が可視化されモチベーションへとつながります。

翌月に向けて月末に振り返り、目標や計画の実行度合いを確認しましょう。

④ 実行

毎日の活動実績を記録シートに記入

スマートフォンで記録ができる無料のアプリもあるので活用しましょう。歩数計(万歩計)、ウェアラブルデバイスをお持ちの方は、それらも役立ちます。



定期的に身体活動量を見直し、目標と計画の妥当性について自己評価してみましょう。つけた記録は次の面談時にお持ちください。一緒に振り返りをしましょう。



相談窓口

記録シート 年 月

「身体活動量アップで健康維持！私のアクティブプラン」と併せてご活用ください。

身体活動量の目安

- 18～64歳向け

身体活動：普通に歩く時の強度以上、1日の合計が60分
運動：息が弾み汗をかく程度、1週間の合計が60分
- 65歳以上向け

身体活動：無理のない強度、1日の合計が40分
運動：無理のない範囲で行いましょう
- 推奨されている身体活動量を歩行数に換算すると、1日あたり20～64歳で8,000歩、65歳以上で6,000歩相当となります。

日 付		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
生活活動	計画（達成○、半分達成△、未達成×）																															
	・いつ ・どんな活動 ・どれくらい																															
運動	計画（達成○、半分達成△、未達成×）																															
	・いつ ・どんな運動 ・どれくらい																															
歩数	歩数グラフ																															
	1日の目標歩数																															
自己評価																																